

ワンニャン通信

2026.2 月

担当:中島



いつどこでかかるかわからないのが感染症の恐ろしさ。ワクチンで予防できる病気はしっかり予防しましょう。

今月はネコちゃんがワクチン接種で予防できる病気をご紹介します。

猫ウィルス性鼻気管炎 (病原体: 猫ヘルペスウィルス1型)

初めは咳やくしゃみ、鼻水、発熱など風邪のような症状が続きます。目ヤニなどが多くなり、角膜炎や結膜炎を引き起こします。感染力が強く、他のウィルスとの混合感染も多いため、特に子猫の場合は重症化し、死亡する場合があります。回復してもウィルスは体内に残り、ストレスなどが原因で再発することもあります。



猫カリシウィルス感染症 (病原体: 猫カリシウィルス)

一般的に咳、くしゃみ、鼻水、発熱、涙など風邪に似た症状が続き、悪化すると舌や口の中に水疱や潰瘍がみられるようになり、肺炎を起こすこともあります。他のウィルスとの混合感染で合併症などを引き起こすと、死亡する場合があります。回復後もウィルスを排出するため、感染源としても注意が必要です。



猫汎白血球減少症 (病原体: 猫パルボウィルス)

最も危険な急性感染症のひとつです。子猫や若い猫ちゃんに発症することが多く、激しい嘔吐、強い腹痛、下痢(血便)、高熱、急速な脱水などの症状がみられ、死亡率が高い病気です。

妊娠中のネコちゃんが感染すると胎児にも影響します。

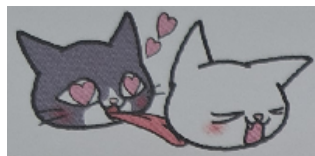
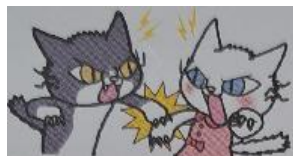


猫白血病ウィルス感染症（病原体：猫白血病ウィルス）

免疫機能の抑制、貧血、リンパ腫の原因となり、さまざまな症状がみられます。胎児に感染すると高い確率で死産となります。

感染したネコちゃんの血液や唾液、涙の中には大量のウィルスが存在し、尿や糞便中にも含まれます。一般的に感染したネコちゃんの唾液との長期接触（ケンカやグルーミング、食器の共有）によってほかのネコちゃんに感染します。

発症すると治療が難しい深刻な病気のため、しっかり予防して**感染の拡大を防ぐ**ことが重要です。



猫クラミジア感染症（病原体：クラミドフィラ・フェリス）

主に**結膜炎や角膜炎、粘液状目ヤニ**、上部呼吸器症状がみられ、感染が続くこともあります。

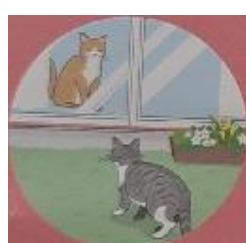
まれに一過性の発熱、食欲不振や体重減少がみられます。

ネコちゃん同士の接触で感染し、まれに人に感染することもあります。



感染のリスクはこんなところにも。

他のネコちゃんとの接触、人間が持ち込む、災害時の同行避難



ほかのウィルスや細菌による二次感染を防ぎ、食事がとれない猫は輸液や栄養療法で体力を維持します。

感染症からネコちゃんを守るためにも他のネコちゃんたちのためにも、ワクチンで予防できる病気はしっかり予防しましょう。



もらわない
伝染さない！